



令和4年12月号

## 支援を哲学するお話②

「子どもが中心であり、この中心の周りに諸々の営みが組織される。」  
「教育とは、過去の価値の伝達ではなく、未来の新しい価値の創造である」

ジョン・デューイ

デューイは19世紀～20世紀に活動をしていたアメリカの教育哲学者です。

「児童中心主義」とも呼ばれるこの考え方は、子ども自身の活動や自発性、経験、問題解決を大切にしています。これは、保育や教育で考えれば「環境設定」の重要性を説いているのだと捉えています。「環境」と言うと場所や教材を考えがちですが、私は「人」が一番の環境要因だと考えています。共に過ごす「仲間」と共に、私たち「大人」も重要な「環境」です。主体を子どもと考えた時に環境である私たち支援者が、子どもの成長に少しでも良い影響を与えられる様な関わりが出来ると良いですね。

また、子どもたちは5年後・10年後・20年後の未来を生きる事を考えると、私たちが過去に学んできた常識は通用しない社会になっている可能性も考えながら、知識や学力だけではなく、自分で考え・自分で選び・自分で決定する為の方法や手段が大切になって行きます。

「自己肯定感」という言葉は今では一般的ですが、始めにこの言葉を使い始めたのは汐見稔幸先生です。汐見先生は東京大学名誉教授や白梅学園大学学長などを歴任し、今も保育や教育者の育成やメディアでも活躍をされています。私も何度か汐見先生の研修や講演に参加をした事があるのですが、深い話をとても分かりやすくお話される方でした。

汐見先生は常に、子ども一人一人を「一人の人間」として同じ目線で語ります。汐見先生の話の聞いていると、同じ目線という事が「子どもの目線に下げて合わせる」という単純なものではなく、自然に合わさっている状態なのだと感じてしまいます。汐見先生は常に「共感する」事の大切さをお話されており、私たち支援者の基本的な視点として求められる力なのだと心掛けています。

汐見稔幸先生は様々な活動をしています。ご興味があれば。

臨床育児・保育研究会  
家族・保育デザイン研究所  
ぐうたら村

<http://ikuji-hoiku.net/index.html>  
<https://kahoken.net/>  
<https://gutara-v.net/>

児童通所課 嵯峨憲司



# 11月活動報告

## 祝日プログラム

### しいたけ狩り



11月3日（木）  
所沢にある『くりはらし  
しいたけ園』にてしいたけ  
狩りを行いました。しい  
たけ狩りを行った後は狭  
山自然公園にて昼食を食  
べました。



### MJ狭山販売会

11月23日（水）  
MJ狭山販売会に参加  
しました。日頃貯金  
していたMJ通貨を  
使って作品を購入し  
たり、ボタニカル  
キャンドルの体験を  
したりゲームをしま  
した。



## MJフレンドパーク

11月5日（土）  
に稲荷山公園にて3事業  
所合同のMJフレンド  
パークを行いました。店  
員役として参加してくれ  
た子ども達と職員が一丸  
となって素晴らしいイベ  
ントになりました。沢山  
のご来場ありがとうございました！



## お知らせ

■ コロナ感染症が感染拡大しています。MJ入間では引き続き感染対策しながら活動を行って参ります。

■ 本年もご利用者の皆様には大変お世話になりました。12/28（木）～1/3（火）の期間は運営規定に則り、お休みとなります。1/4（水）から活動が始まります。元気な姿で会えることを楽しみにしています。

MJ入間職員一同